

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 久居農林高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>少人数教育を生かし、地域に根ざした専門高校を目指します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「農業」「家庭」の専門性を生かし、地域社会を担う将来のスペシャリストを育成します</li> <li>・「生物」「環境」「生活」の情報発信基地として、地域に貢献します</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	一人ひとりが主体となって活動し、社会貢献に意欲的に取り組み、自己の成長を実感しながら、将来地域を担い、地域のリーダーとなる意欲を持った生徒
	ありたい 教職員像	各担当教科の専門性を高めるとともに、授業形態や指導内容等の工夫・改善を行い、生徒の成長に喜びを感じ、充実感を持って業務に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>○生徒 わかりやすい授業、安心安全で楽しく過ごせる学校、自己の存在が実感できる学校、進路希望の実現</p> <p>○保護者 子どもを成長させてくれる信頼できる学校、進路希望の実現、職業観・勤労観および基本的な生活マナーの定着</p> <p>○地域住民 地域に開かれた学校、地域を担う人材を育てる学校、基本的な生活マナーの定着</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>○保護者 学力定着、進路希望実現、卒業後のケア</p> <p>○地域住民・産業界 教育資源の活用、知識や技能・意欲を持った生徒の育成、基礎学力</p> <p>○近隣保・幼・小・中・高校等 教育資源の活用、連携の強化</p>	<p>○保護者 生活指導等への理解と協力、学校行事への参加</p> <p>○地域住民・産業界 教育方針等の理解、学校経営への協力と参画</p> <p>○近隣保・幼・小・中・高校等 教育方針等の理解と協力、連携事業の強化</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者、教職員アンケートでは様々な指標について評価は高い傾向にある。しかし、ひとつひとつの指標で判断すると課題もある。先生で「授業へ行くのが楽しい」70%は、「楽しくない」30%の原因を探ってほしい。学校改善に向けてより高いレベルで取り組まれたい。</li> <li>・部活動については、成果だけで判断しなくていいので地道にコツコツ取り組んで頂きたい。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○生徒が主体となった地域貢献活動 各コースがそれぞれの特色を活かした「わくわく農林塾」の活動はマスコミにたびたび取り上げられていることにより、本校の教育活動に対する地域の理解が広がりつつある。また、生徒は自分達の活動が目に見える形で評価されたことで自信を持ち、意欲的に取り組むようになってきている。「農業」「家庭」のもつ魅力や学習内容をさらに浸透させていく必要がある。</p> <p>○勤労観・職業観の確立 「日本版デュアルシステム・インターンシップ」「卒業生に聞く会」「緑風デー」などの取り組みを進めると共に、進路指導部、担任、コースが連携し、きめ細かな進路指導を行った結果、就職内定100%を継続して達成している。今後は、全ての教育活動をキャリア教育の視点で整理し、1年次より組織的・系統的なキャリア教育を推進し、3年間でしっかりと職業観や勤労観を確立させ、生きる力を身につけさせることが課題である。</p> <p>○部活動 全国大会、東海大会等に出場し活躍している部活動もあるが、全体的に見ると部活動の成果が低迷していることから、学校全体で活性化に取り組む必要がある。</p>
	学校運営等	<p>○少人数コース制 「農業」「家庭」の専門性を高め、生徒のニーズにあった活性化を図ってきた。本校の最大の特徴である「少人数コース制」についてその成果と課題の検証を行い、効果を最大限生かすような教育内容、指導方法になっているか常に確認する必要がある。</p> <p>○組織的な指導体制 個人の能力だけに頼らず「目指す学校像」実現のため、生徒指導や進路指導など組織的に指導する体制が整ってきている。今後、分掌や学科・コースを超えての連携やさらに教職員の力量を高めるためOJTを充実させる必要がある。</p>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自ら学ぼうとする意欲を高めるため、自らが課題を設定し解決する学習活動を推進する。</li> <li>・生徒の進路希望を実現するため、あらゆる教育活動をキャリア教育の視点で捉え、就職・進学だけでなく、その先の社会活動を見通した組織的な進路指導をすすめる。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に提供する学習内容を充実し、学力向上につなげるため、プロジェクト学習やアクティブ・ラーニング等の主体的な学習活動の研究を行い、全教職員が連携して授業改善に努める。</li> <li>・教職員が意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、組織の目的を共有する場を設けるとともに、組織の業務内容を見直し、過重労働の削減等に取り組む。</li> </ul>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導 の充実	<p>(1) 生徒が主体となるような授業を実践する</p> <p>【活動指標】 わくわく農林塾を各コース1回以上実施する 可能であれば2回以上実施する</p> <p>【成果指標】 事後アンケートにより、自分の成長を感じたという回答75%以上</p> <p>(2) 生徒による授業評価を実施する</p> <p>【活動指標】 アンケートにより授業満足度を把握</p> <p>【成果指標】 授業がわかりやすいという回答70%以上</p>	<p>(1)全コースにおいてわくわく農林塾を実施、アクティブラーニングの手法を取り入れた授業の充実により、理解度が上がった。「成長を感じた」というアンケートは全員実施はできなかったが、最も多く実施したコースは90%を超えた。また「授業の内容を理解している」77%でおおむね良好であるが、「授業内容は進学や就職に役立っている」が66%でありこの数値を上げる必要があると判断する。</p> <p>(2)「内容や説明がわかりやすい」81%等、生徒アンケートでは授業満足度等が高い数値がでた。しかし生徒自身が「授業中はしっかり取り組んでいる」が30%台に留まるなど、課題も多く改善の余地がある。</p> <p>本年度、基礎学力の充実をはかるプロジェクトチームを立ち上げた。基礎学力の定着と、さらなる実験実習の充実や授業基盤の確立と学習方法の改善に努力したい。</p>	◎
キャリア 教育の充 実	<p>(1) 進路ガイダンスを充実させる</p> <p>【活動指標】 3年生3回、1・2年生各2回</p> <p>【成果指標】 進路ガイダンスの生徒満足度80%以上</p> <p>(2) 生徒が主体的に進路を選択する力を養う</p> <p>【活動指標】 インターンシップ等を活用するとともに面接等の指導の充実を図る。</p> <p>【成果指標】 就職内定者数(率)年内95%以上</p>	<p>(1)各学年との連携をし、3年生9月まで毎月、ガイダンス、履歴書・面接指導等を実施、1、2年生も進路ガイダンスを4月、10月、3月に実施し生徒の希望実現に繋げた。ガイダンス関連の満足度は88%でありインターンシップ、体験実習、現場見学会等を充実させたことがキャリア教育の充実につながっていると判断する。</p> <p>(2)学校斡旋、自己開拓就職希望者を含めて3年生の年内内定率が97%になり目標の達成ができた。今後はより専門教育を活かした進路開拓をはかるなどの努力を続けていきたい。</p>	※
生徒指導 の充実	<p>(1) 服装・頭髪等の身だしなみを整える</p> <p>【活動指標】 頭髪・服装指導 年間8回実施</p> <p>【成果指標】 頭髪再指導が10%以内&lt;年度最終&gt;</p>	<p>(1)頭髪服装指導は計画通り実施。1月実施の頭髪再指導者は15%で、多くは前髪が少し長い生徒による再指導であった。</p> <p>(2)遅刻指導者は12月末段階で述べ777名で、一部の常習者が数を伸ばしている。家庭の問題等もあり、特効薬は見つからないが、保</p>	※

	<p>(2) 生徒に規則正しい生活習慣を身につけさせる</p> <p>【活動指標】遅刻カウンター・遅刻カードの活用</p> <p>【成果指標】学校全体の遅刻の総数を 700 以下 (全校生徒数以下)</p>	<p>護者等への協力依頼等も含めて来年度、具体的な対策を講じる必要がある。</p>	
<p>保健管理の充実</p>	<p>(1) 健康管理を充実させる</p> <p>【活動指標】生徒自身が健康状態を把握し、健康の保持増進の意識を高める</p> <p>【成果指標】すべての検診について受診 100%</p> <p>(2) 保健教育を充実する</p> <p>【活動指標】健康課題により、集団指導と個別指導を行い、さらには外部講師も活用する</p> <p>【成果指標】アンケートによる満足度 80%以上</p> <p>(3) 相談活動を充実させる</p> <p>【活動指標】保健室での相談活動を中心に、スクールカウンセラーや発達障がい支援員と連携する</p> <p>【成果指標】スクールカウンセラーによる相談を 5 時間×32 回実施 おこなう発達障がい支援員を月 2 回以上招聘</p> <p>(4) 命を大切にすることを育む教育活動を充実させる</p> <p>【活動指標】生徒向け研修会等を実施する</p> <p>【成果指標】学年別で各年間 2 回実施</p>	<p>(1) すべての検診において全員受診できた。要精密検査対象生徒については専門機関への受診率は 100%。健康診断の結果報告の配布などで直接保護者へ呼びかけたため専門機関への受診率の向上につながった。</p> <p>(2) 年間 2000 件近くの来室状況により、課題を見つけ年 6 回の保健便り発行や集会時の呼びかけ、また各学年 2 回の性教育講座など保健指導を充実させた。</p> <p>(3) 健康相談とスクールカウンセラーや発達障がい支援員等相談活動を充実させた。「悩みや生活について相談できる雰囲気がある」80%「クラスや学校に友人が何人かいる」95%等多くの生徒は学校生活が充実していると判断するが、友人関係や家庭的な課題により不安定な生徒も多く継続した支援が必要と考える。</p> <p>(4) 交通安全、生活安全等命を大切にすることを講演会を実施。薬物乱用教室、警察署との連携によるスタントマン実演の講習会、交通事故保護者より講演会などより具体的な研修会の実現ができた。</p>	※
<p>改善課題</p>			
<p>農業と家庭の専門高校として地域に根差した人材の育成が目標である。その意味においては、「わくわく農林塾」「地域人材の活用による社会人講師招へい」などさまざまな学習の機会を設けることで教育の充実を図ることができた。また昨年度から基礎学力の充実のためのプロジェクトに取り組んだが、昨今の好景気沸く社会情勢を差し引いても、近年まれにみる高い就職内定率や三重大学 4 名合格の実績を達成し、その成果の一部ともいえる。ただ少数ではあるが、基本的な生活習慣や社会への適応力において不十分な生徒が確実に存在する。生徒を大人として社会に送り出すために必要なプログラムや支援について、さらなる研究が必要である。</p>			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の 取り組み	(1) 教職員の各種研修会を実施し、指導力向上に努める 【活動指標】各学期1回、参加率70%以上 【成果指標】参加者の満足度80%以上	教職員が小グループに分かれてのオフサイトミーティング(参加率80%)を行い、全体での意見交換とチームワークの向上を図った。 また、人権学習や特別支援についての研修を行い、情報の共有と指導力の向上に努めた。	※
チームワークの向上・意欲の増進	(1) 分掌、学科、コース、学年間の連携、情報交換、情報共有に努める 【活動指標】アンケートにより職員の満足度を把握する 【成果指標】学校経営への参画意欲ありという回答60%以上	「学校経営への参加意欲あり」が62%と目標値をクリアした。学校経営として生徒・保護者の満足度が高いことなどは、職員の意欲が高いことも原因のひとつである。今後も、より意欲の向上を図り、学校として「チーム久居農林」にするためには、はさらなる連携等が必要であり、コース、学年の意思疎通や協力体制の確立をはかっていききたい。	
情報提供による信頼の構築	(1) 学校からの情報発信を積極的に行う。 【活動指標】HPの充実、マスコミ等への情報提供 【成果指標】HPトピックス60件以上、報道50件以上、 (2) 進路説明会や高校生活入門講座等により志願者数を増やす。 中学生が本校へ関心と理解をよりいっそう深めるため、学校PRポスターを関係中学校に配布する 【活動指標】中学校20校以上、入門講座2回実施 ポスターを年間2枚以上配布する 【成果指標】参加者数800名以上、前期選抜の志願倍率2.1倍以上、後期選抜1.1倍以上	(1)今年度HPを刷新し、レイアウトの変更、更新方法の簡易化が実現した。結果、情報を早く伝えられるようになり好評を得た。(保護者及び外部表彰【慶応大学SFC研究所】学校活動に対する報道が100近く数え情報発信を通じて活動の理解を深めた。 (2)高校生活入門講座を夏と秋の2回実施し、中学生749名、保護者180名、教員52名の参加があった。学校PRのポスターも生徒の協力により作成し、より一層本校への関心と理解を深め安定した生徒募集について努力していきたい。 学校PRポスター(生徒制作)を年間3種類製作し近隣の中学校に配布することで志願者率の向上を図った。志願倍率は前期2.15倍 後期1.12倍で、目標値は達成し、安定した生徒確保のための情報提供に努めることができた。	※
保護者・地域との連携	(1) わくわく農林塾の実施 【活動指標】アンケートにより満足度を把握 【成果指標】参加してよかったという回答80%以上	(1)わくわく農林塾は、本校生徒活動の地域交流及び理解の基礎活動であり、今後も継続していきたい。「参加して良かった」生徒88%、「保護者との連携や連絡を適切に行っている」85%など 安定した連携が図れた。	◎

<p>働きやすい 職場環境 づくり</p>	<p>(1) 行事や取組の精選 (スクラップ&amp;ビルド) をすすめる 【活動指標】 アンケートにより満足度を把握 【成果指標】 取り組んでいるという回答 70%以上</p> <p>(2) 会議の回数削減や時間短縮を図る 【活動指標】 アンケートにより満足度を把握 【成果指標】 取り組んでいるという回答 70%以上</p> <p>(3) 過重労働改善への取組 【活動指標】 原則として、毎月第1第3月曜日をノ一部活デー、定時退校日とする。また、毎月1日以上の(記念日)年休を取得する。(半日×2回も可) 【成果指標】 過重労働80時間以上ののべ人数50%減 1人あたりの月平均時間外労働時間10%削減</p>	<p>(1)「体育祭や文化祭など学校行事は適切に行われている」81% 年間スケジュールが固定化傾向にあり、システム的にはスムーズであるが、新しい取り組みを取り入れる余裕がない。改善の余地あっても見直し等が進捗しない状況である。生徒や様々な状況に応じた柔軟な対応が今後の課題である。</p> <p>(2)会議の削減については、時間短縮は毎朝の打合せ等の活用により若干進んでおり、勤務時間内終了は増加した。反面、回数削減は難しい状況である。</p> <p>(3)「勤務時間の削減に努めている」が33%と目標にはほど遠いだけでなく低下傾向にある。改善への取り組みは迅速な対応が必要である。部活動顧問について 担当者の平準化に向けて継続した取り組みを進めている。「現在の仕事に満足している」60%「職場の環境は概ねよい」60%で、さらなる改善が必要である。</p>	<p>※  ◎</p>
-------------------------------	---	--	---------------------

### 改善課題

「地域のスペシャリスト」の育成を目指し、過半数が就職する専門学校として、農業と家庭の専門教科を充実させてきた。地域との交流も盛んである。少人数教育による生徒理解も進み、一人一人の希望や個性に応じた支援も各分掌や担任が真剣に取り組んでいる。しかし、教職員の疲弊感の多さや満足度調査の結果などを精査すると、望ましい職場環境ではないように思われる。きめ細かいコース分割や分掌、分担制は教員間の意思疎通が十分でなければ、誤解が生じたり連携に支障が発生することが懸念される。生徒教育の充実だけではなく、そこで働く職員同士が相互理解に努め、お互いの職務を補完しながら学校運営に関わる職員集団にする取組を進めていきたい。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった 改善課題と次へ の取組方向</p>	<p>教育活動の実践が、継続的に行われ地域や保護者の評価も高く推移し「目指す学校像」の実現に向けての取組を評価いただいた。ただ目標設定の成果指標を図るためには「生きたアンケート」にする必要があり、時間的制約等も考慮しつつ実践をダイレクトに反映する調査が重要で、現状に満足することなく継続した不断の取組が求められている。</p>
--------------------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	かねてより課題であった保護者及び教職員対象の授業公開、また管理職による全授業見学等個々の教育活動の充実と更なる連携が図れた。この実践で明らかになった課題（農業、家庭教育において職業との関連性の高度化し専門性追求すること、生徒の進路実現のためより緻密な基礎学力の充実が必要）を真摯に受け止め全校を上げて取組を進めて行きたい。
学校運営についての改善策	久居農林の教育活動の根幹を支えた教職員の転退職を見据え、OJTによる個人の力量を高めるだけでなく、組織として各分掌の連携を深めることが不可欠である。また学習指導要領の改変を踏まえ、地域に根差した学校運営の充実を図るためにキャリア教育の充実を図り、より高い進路実現のための教職員の指導体制を見直すことに取り組みたい。また過重労働の解消についても、引き続き取り組み、会議、行事の精選や学校独自の部活動ガイドライン作成などにあたりたい。